

## 前回会議以降の各種会議の結果報告及び今後の予定について

### 1. 前回会議以降の各種会議の検討結果

平成 21 年度第 1 回科学委員会【2009.5.18】 [参考資料 1](#)参照

今年度の予定について事務局から説明を行い、今年度 9 月に仮提出、今年度 1 月に本提出を行うことについて確認した。また、前回委員会以降に開催された各種会議での検討状況について、事務局から報告を行った。

推薦書の検討について事務局から説明を行い、遺産区域の設定に関する議論や、科学的事実の記載に関する議論をおこなった。また、各専門分野から助言があった。

管理計画の検討について、事務局から説明を行い、産業振興、愛玩動物対策近縁種対策、遺伝子攪乱の予防措置が不十分である等の指摘があった。

関係行政機関から、20 年度の各種事業の結果と 21 年度の計画について報告が行われた。これに対し、事業連携の必要性についての指摘や事業内容についての助言があった。

第 9 回地域連絡会議【2009.5.24】 [参考資料 2](#)参照

2010 年の推薦に向けた今年度の予定と前回地域連絡会議以降の結果報告について、事務局から報告を行った。

推薦書、管理計画、各種事業の進捗状況について、事務局から説明を行った。事務局からは、科学委員会等の検討を受けて、地元での行動の重要性について言及された。

外来種としてのシロアリ対策実施の要望、父島におけるクマネズミの増加、遺産区域から外れているオガサワラオオコウモリの保全の強化に対する意見があった。

平成 20 年度第 3 回部会【2009.6.30】 [参考資料 3](#)参照

アクションプラン(案)について、一部修正(事業内容の整合性や実施主体の整理等の精査)をした上で、申し送り事項を付帯して科学委員会に報告することを条件に、了承された。

今後の対応について、アクションプランの了承をもって部会の目的が達成されたと判断し、本部会を一旦終了することについて合意された。

種間相互作用ワーキンググループ【2009.6.30】

部会の終了を受けて、科学委員会の下部組織として存続することでメンバーの合意が得られた。

平成 21 年度のマニタリング調査計画と調査速報について報告した。実証モデルプランの検討については、注目すべき種間関係として訪花昆虫のほか植物間の種間関係が挙げられるなど科学的見地からの助言が行われた。

第 33 回世界遺産委員会【2009.6.22～30】(口頭で開催結果等について報告)

## 2. 今後の予定

### 小笠原諸島の世界自然遺産推薦に向けた取り組みの進め方

		18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	
		暫定リスト提出後2年経過				現在	暫定リスト提出後3年	アクションプランの短期目標期限 (概ね当面3年程度)	
『推薦書』の検討・作成		基礎的情報収集 作成準備 推薦書(骨子案)作成		推薦書(案)検討～とりまとめ	最終調整				
『管理計画(アクションプラン)』の検討・策定・運用		基礎的情報収集 保全管理の検討・実施、運用開始 管理計画(骨子案)作成		管理計画(案)検討～とりまとめ 仕組みの運用(実践)、フィードバック	最終調整				
上記に係わる 検討・調整	地域連絡会議	推薦書(骨子案) 管理計画(骨子案)		推薦書(案) 管理計画(案)		推薦書(決定稿) 管理計画(決定稿)			
	科学委員会								
	部会(外来種)								
	ワーキンググループ			WG	WG	WG	WG		
関係省庁連絡会議									
保護担保に 関してとるべき 措置措置	国立公園 再検討	検討作業							
	森林生態系 保護地域	地域設定	保全管理計画策定	適切な保全管理の実施					

暫定リスト提出

推薦書・管理計画(骨子案)

推薦書・管理計画(案)

推薦書・管理計画(最終案)  
パブコメ・説明会

9月推薦書仮提出

推薦書・管理計画(決定稿)

2月「遺産推薦手続」推薦書提出

【評価】IUCN視察

【遺産登録審査】世界遺産委員会